

救急救助編

月別の救急出動状況

平成31年1月1日～令和元年12月31日

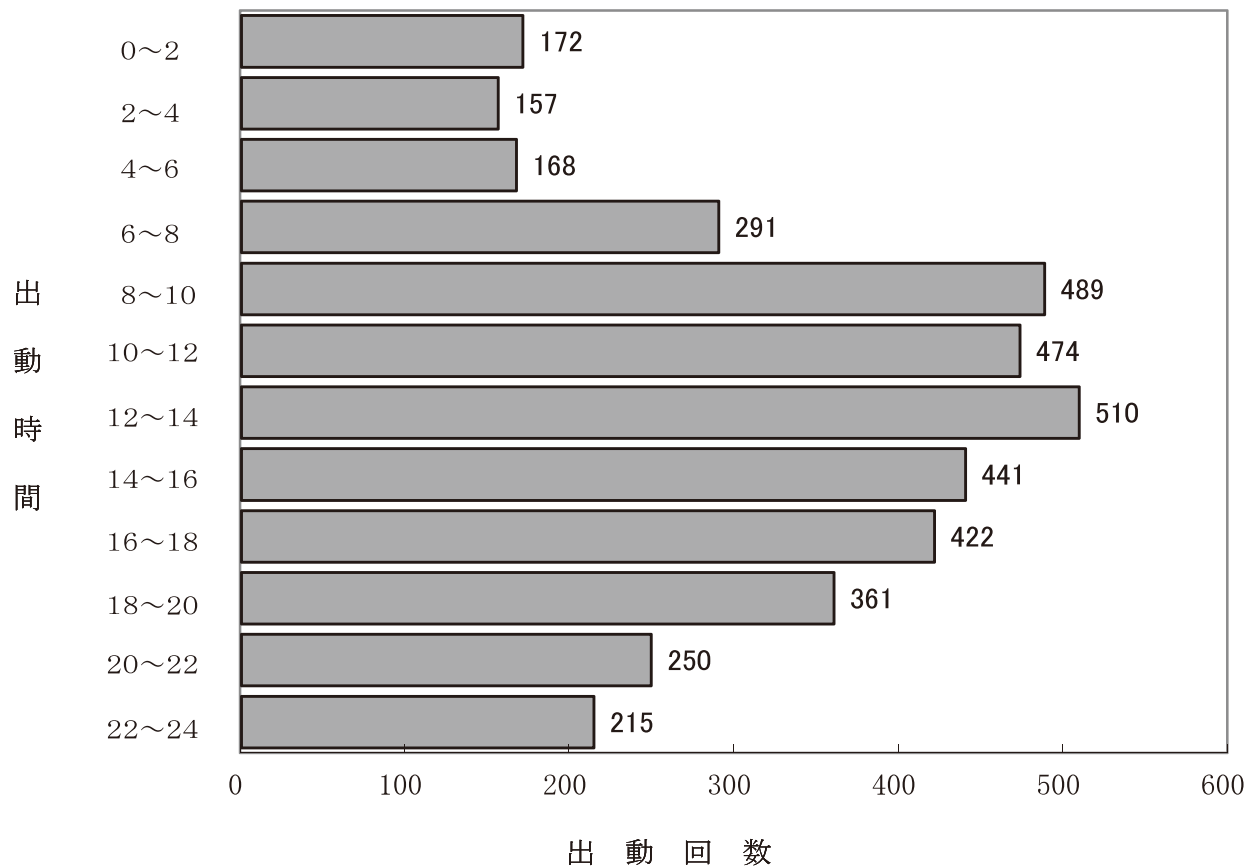
(単位：件、人)

事故種別 区 分		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計	合 計	不 搬 送
												転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他			
1 月	出動件数	3			19	1	2	46		6	259	45			4	49	385	40
	搬送人員				14	1	2	45		2	236	45				45	345	—
2 月	出動件数	1			20	1	3	39		2	197	41			21	62	325	41
	搬送人員				20	1	3	36		2	183	41				41	286	—
3 月	出動件数	2			18	2	2	32		2	209	53			6	59	326	38
	搬送人員				17	2	1	28		1	189	53				53	291	—
4 月	出動件数	3			8	5	2	52		4	171	47				47	292	26
	搬送人員				7	5	2	46		3	157	47				47	267	—
5 月	出動件数	3			11	3	2	44	1	3	212	43			1	44	323	22
	搬送人員	1			10	3	2	43	1	2	196	43				43	301	—
6 月	出動件数	1			11	2	4	35		3	211	46				46	313	25
	搬送人員				10	2	4	29		2	195	46				46	288	—
7 月	出動件数	2			22	4	2	55	1	1	231	35			1	36	354	34
	搬送人員				20	4	2	53			210	35				35	324	—
8 月	出動件数	2			18	5	3	39		3	235	46			3	49	354	33
	搬送人員				16	4	3	39		1	213	46				46	322	—
9 月	出動件数	1			19	6		36	2	5	191	46			2	48	308	31
	搬送人員				21	6		31		2	173	46				46	279	—
10 月	出動件数	2			15	4	1	43	1		219	31			3	34	319	16
	搬送人員				14	4	1	40	1		213	31				31	304	—
11 月	出動件数				14	3	2	33		3	190	54			2	56	301	22
	搬送人員				12	3	2	31		3	174	54				54	279	—
12 月	出動件数	5			24	2		34	1	1	221	62				62	350	27
	搬送人員				20	2		34	1	1	205	62				62	325	—
合 計	出動件数	25			199	38	23	488	6	33	2,546	549			43	592	3,950	355
	搬送人員	1			181	37	22	455	3	19	2,344	549				549	3,611	—

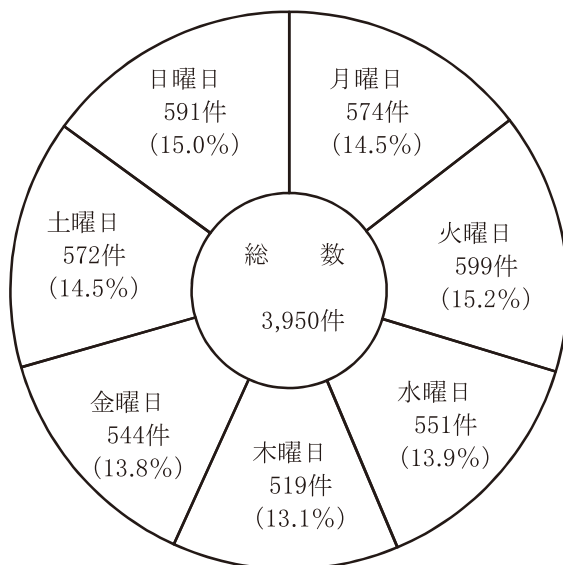
出動 1日平均 10.82 件 (2時間13分に1件)
搬送 1日平均 9.89 人

時間別救急出動件数

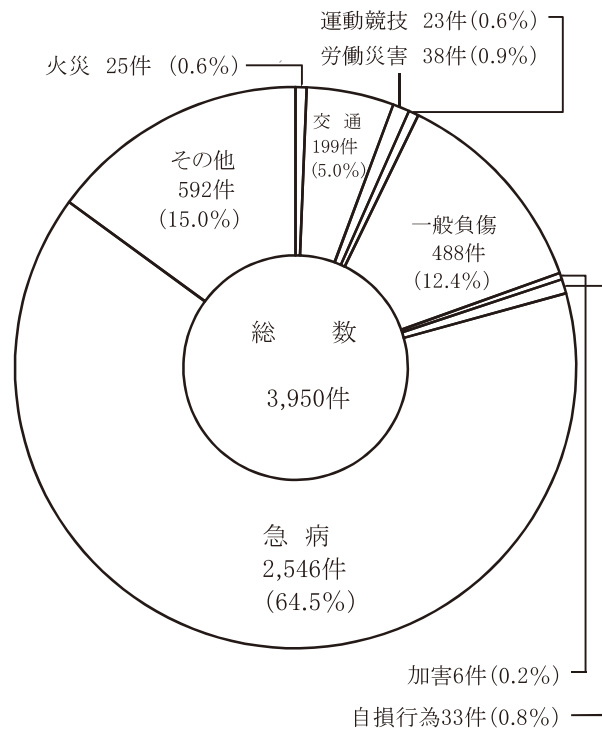
(単位：件)



曜日別救急出動件数



事故種別救急出動割合



※各表 平成31年1月1日～令和元年12月31日

出動場所別救急出動状況

平成31年1月1日～令和元年12月31日

(単位：件、人)

事故種別 出動場所別		火	自然	水	交	労	運	一	加	自	急	そ の 他				合	不
		災	災	難	通	働	動	般		損		転	医	資	そ		
		害	害		事	災	競	負	害	行	病	院	師	器	の	計	搬
		害	害		故	害	技	傷		為		搬	搬	材	他		送
岩見沢	出動件数	23			191	36	22	469	6	30	2,461	523			43	566	341
	搬送人員	1			174	35	21	439	3	17	2,265	523				523	-
月形	出動件数	2			5	2	1	18		3	84	26				26	12
	搬送人員				5	2	1	15		2	79	26				26	-
その他	出動件数				3			1			1						2
	搬送人員				2			1									-
合計	出動件数	25			199	38	23	488	6	33	2,546	549			43	592	355
	搬送人員	1			181	37	22	455	3	19	2,344	549				549	-

過去5年間の救急出動推移

各年1月1日～12月31日

(単位：件、人)

事故種別 年 別		火	自然	水	交	労	運	一	加	自	急	そ の 他				合	不
		災	災	難	通	働	動	般	害	損	病	転	医	資	そ		
		害	害		事	災	競	負		行		院	師	器	の	計	搬
		害	害		故	害	技	傷		為		搬	搬	材	他		送
平成27年	出動件数	22		2	228	22	18	488	9	43	2,275	541			39	580	314
	搬送人員	1		1	256	22	18	451	9	26	2,095	540			1	541	-
平成28年	出動件数	26		2	243	34	28	538	11	39	2,313	513	1	1	58	573	310
	搬送人員	4			245	34	27	514	7	32	2,162	512				512	-
平成29年	出動件数	27			196	20	18	519	8	27	2,390	564			43	607	315
	搬送人員	6			190	20	18	472	7	21	2,226	561			3	564	-
平成30年	出動件数	25		1	239	26	30	569	7	36	2,408	575			57	632	319
	搬送人員	2		1	240	26	32	544	7	24	2,247	571				571	-
令和元年 (平成31年)	出動件数	25			199	38	23	488	6	33	2,546	549			43	592	355
	搬送人員	1			181	37	22	455	3	19	2,344	549				549	-

傷病程度別の搬送人員状況

平成31年1月1日～令和元年12月31日

(単位：人)

事故種別 傷病程度	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計
死 亡				1			9		3	84		97
重 症				11	14		102		8	394	217	746
中 等 症				22	7		59		3	595	252	938
軽 症	1			147	16	22	285	3	5	1,271	80	1,830
そ の 他												
合 計	1			181	37	22	455	3	19	2,344	549	3,611

傷病程度

初診時における医師の診断(救急業務実施基準第20条第2項の医師の所見)に基づき次により分類する。

1. 死 亡 初診時において死亡が確認されたもの
2. 重 症 傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
3. 中等症 傷病程度が入院を要するもので重症に至らないもの
4. 軽 症 傷病程度が入院加療を必要としないもの
5. その他 医師の診断がないもの、及び搬送先がその他の場所へ搬送したもの

年齢区分別の搬送人員状況

平成31年1月1日～令和元年12月31日

(単位：人)

事故種別 年齢区分	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計
新 生 児											13	13
乳 幼 児				6			20			75	3	104
少 年				16		11	9	1	1	46	3	87
成 人				106	26	10	71	2	15	559	109	898
高 齢 者	1			53	11	1	355		3	1,664	421	2,509
合 計	1			181	37	22	455	3	19	2,344	549	3,611

年齢区分

1. 新生児 生後28日未満の者
2. 乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者
3. 少 年 満7歳以上満18歳未満の者
4. 成 人 満18歳以上満65歳未満の者
5. 高齢者 満65歳以上の者

救急隊員が行った応急処置件数

平成31年1月1日～令和元年12月31日

(単位：件、人)

事故種別	応急処置 対象人員	止 血	固 定	人工 呼吸	胸 骨 圧 迫		心 肺 蘇 生		酸素 吸入	保 温	被 覆
						うち自動		うち自動			
急 病	2,338	25	53	6			91		490	54	11
交 通	180	20	59				1		12	8	30
一般負傷	448	106	124				12		36	10	127
そ の 他	622	18	43	2			5		148	10	21
合 計	3,588	169	279	8			109		686	82	189

事故種別	応急処置	気 道 確 保				在 宅 療 法 継 続			ショックパン ツによる 血圧保持	除細動
		※1	※2	※3	※4気管挿管	※A	※B	※C		
急 病	117		2	73	2	11		11		8
交 通	1			1						
一般負傷	15		4	7		1		1		
そ の 他	10			2						
合 計	143		6	83	2	12		12		8

事故種別	その他の 応急処置	静 脈 路 確 保		薬 剤 投 与		血圧 測定	聴診器に よる聴取	血中酸素飽 和度の測定	心電図	血糖測定	合 計
		CPA前	CPA後	アドレナリン	ブドウ糖投与						
急 病	7	12	26	24	8	2,199	548	2,250	921	133	6,994
交 通						174	48	178	28	3	562
一般負傷		2	3	3		428	50	436	57	2	1,412
そ の 他	1	2				606	62	616	224		1,768
合 計	8	16	29	27	8	3,407	708	3,480	1,230	138	10,736

- 止 血 直接圧迫、止血帯、包帯等による止血処置
- 固 定 副子等による固定又は安静保持
- 人工呼吸 口対口又は器具等による人工呼吸
- 胸骨圧迫 胸骨圧迫心マッサージ
- 心肺蘇生 心肺蘇生法
- 酸素吸入 酸素吸入器による酸素吸入
- 保 温 傷病者の状況から保温を保持する必要がある場合に行う保温処置
- 気道確保
 ※1 経鼻エアウェイを使用しての気道確保
 ※2 喉頭鏡・マギール鉗子等による異物除去
 ※3 救急救命士法に基づき重度傷病者に対して行う救急救命処置のうち、ラリングアルマスク等を使用しての気道確保
 ※4 救急救命士法に基づき気道確保のための処置で救急救命士が行った気管挿管処置
- 被 覆 創傷をガーゼ等で被覆する創面保護
- 在宅療法継続 在宅療法継続中の傷病者に対しその療法維持のために行った必要な処置及び在宅療法に異常があった場合に行った応急処置
 ※A 在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴処置が施されているもの
 ※B 気管切開孔又は気管瘻、人工肛門等の外瘻処置が施されているもの
 ※C ※A、※B以外の処置が施されているもの
- ショックパンツによる血圧保持 ショックパンツを使用した血圧保持の処置
- 除 細 動 重度傷病者に対して行う救急救命処置のうち、自動体外式除細動器(AED含む)による除細動
- 静脈路確保 CPA前～救急救命士法に基づき心肺機能停止前に行う静脈路確保のための輸液
 CPA後～救急救命士法に基づき重度傷病者に対して行う救急救命処置のうち、薬剤を用いた静脈路確保のための輸液
- その他の応急処置 1から13以外の応急処置
- 血圧測定 血圧計を使用しての血圧測定
- 聴診器による心音・呼吸音等の聴取 聴診器を使用しての心音・呼吸音等の聴取
- 血中酸素飽和度の測定 血中酸素飽和度測定器を使用しての血中酸素飽和度の測定
- 心 電 図 心電計を使用しての心電図の測定
- 薬剤投与 救急救命士法に基づき重度傷病者に対して行う救急救命処置のうち、アドレナリンの投与
- ブドウ糖投与 低血糖傷病者へのブドウ糖溶液の投与
- 血糖測定 救急救命士法に基づき救急救命士が行なった血糖測定

急病にかかる疾病分類別搬送人員の状況

平成31年1月1日～令和元年12月31日

分類項目別	循環系		消化器系	呼吸器系	精神系	感覚器系	泌尿器系	新生物	その他	症微診不	合 計
	脳疾患	心疾患等									
搬 送 人 員 (人)	200	258	194	287	122	126	102	61	431	563	2,344
構 成 比 (%)	8.5	11.0	8.3	12.2	5.2	5.4	4.4	2.6	18.4	24.0	100.0

1. 急病に係る疾病分類とは、事故種別の急病については初診時における医師の診断に基づく傷病名をWHO(世界保健機関)で定める国際疾病分類(ICD)により分類したものである。
2. 「脳疾患」とは、脳血管疾患をいう。
3. 「新生物」とは、胃の悪性新生物、白血病等その他の悪性新生物及びその他の新生物をいう。
4. 「症微診不」(症状・微候・診断名不明確の状態)とは、腹痛、頭痛、失神、めまい等の疾病をいう。
5. 「その他」とは、上記の循環系から新生物までに分類された以外の疾病分類の全てである。

救助事故種別出動件数

平成31年1月1日～令和元年12月31日

(単位：件)

事故種別 件数区分	火災		交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機 械 に よる 事故	建物等に よる 事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事 故	合 計
	建物	建物以外									
岩見沢市	1		22			2	19	2		35	81
月形町			3			1	1				5
その他の 市町村			1								1
合 計	1		26			3	20	2		35	87

救助活動件数・救出人員数調

平成31年1月1日～令和元年12月31日

(単位：件、人)

事故種別 件数区分	火災		交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機 械 に よる 事故	建物等に よる 事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事 故	合 計
	建物	建物以外									
活 動 件 数	1		18			2	13	2		6	42
救 出 人 員	1		20			2	13	2		6	44

1. 火災とは、火災現場において、直接火災に起因して生じた事故をいう。
2. 交通事故とは、すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故若しくは歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故をいう。
3. 水難事故とは、水泳中の溺者又は水中転落等による事故をいう。
4. 風水害等自然災害事故とは、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火、雪崩、地すべり、その他の異常な自然現象に起因する災害による事故をいう。
5. 機械による事故とは、エレベーター、プレス機械、ベルトコンベアその他の建設機械、工作機械等による事故をいう。
6. 建物等による事故とは、建物、門、柵、へい等建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故、建物等内に閉じ込められる事故、建物等に挟まれる事故等をいう。
7. ガス及び酸欠事故とは、一酸化炭素中毒その他のガス中毒事故、酸素欠乏による事故等をいう。
8. 破裂事故とは、火災現場において直接火災に起因して生じた事故以外のボイラー、ボンベ等の物理的破裂による事故をいう。
9. その他の事故とは、上記に掲げる事故以外の事故で、消防機関による救助を必要としたものをいう。

救急講習会の実施状況

各年1月1日～12月31日

年 別 区 分		令和元(平成31)年	平成30年	平成29年
一 般 講 習	回 数	60 回	60 回	40 回
	受講者数	2,012 人	1,808 人	1,190 人
普通救命講習	回 数	54 回	69 回	44 回
	受講者数	906 人	1,239 人	725 人
普 及 員 講 習	回 数	回	回	回
	受講者数	人	人	人
合 計	回 数	114 回	129 回	84 回
	受講者数	2,918 人	3,047 人	1,915 人

1. 一 般 講 習 応急手当等の基礎的な知識を習得させる講習。
2. 普通救命講習 AEDを含めある程度専門的な技術を習得させる講習で、受講者には「修了証」を交付。
3. 普 及 員 講 習 事業所、団体、地域等で応急手当の指導・普及に当たるものを養成する講習。

□救急業務の高度化の流れ

- ▽平成15年4月 … 「救急救命士法」の改正→「指示なし除細動」の実施が可能となる。
- 平成16年5月 … 救急救命士による”包括的指示下”での「除細動実施」の運用開始。
- 平成16年7月 … 医師の指示を受けて救急救命士による「気管挿管」の実施が可能となる。
市民の「AED(自動体外式除細動器)」の使用が可能となる。
- 平成17年5月 … 市民に対して「AED講習」の開始。
- 平成18年4月 … 医師の指示を受けて救急救命士による「薬剤投与」の実施が可能となる。
- 平成21年3月 … 「エピペン(自己注射が可能なエピネフリン製剤 別名アドレナリン)」
の投与が可能となる。
- 平成23年8月 … 「ビデオ硬性挿管用喉頭鏡による気管挿管」の実施が可能となる。
- 平成26年4月 … 「心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液」の実施が可能
となる。
「血糖測定」並びに「低血糖発作症例に対するブドウ糖溶液の投与」が可能
となる。